

全国在宅療養支援診療所連絡会 第3回全国大会 プログラム別詳細

内容	ランチョンセミナー
タイトル	外来・在宅での創傷・褥瘡管理 ～Wellbeing 向上に向けてハイドロサイト®ライフを用いた褥瘡管理の実践 その人らしい生活のために～
共催	スミス・アンド・ネフュー ウンドマネジメント株式会社
日時	平成28年3月13日（日）12:20-13:20
会場	第1会場（501）
座長	鈴木央（第3回全国大会長／鈴木内科医院）
演者	岡田晋吾（北美原クリニック理事長／函館五稜郭病院客員診療部長）
企画趣旨・概要	<p>わが国の医療環境は高齢化、病院の機能分化など急速に変化しており、褥瘡治療の現場は急性期病院から療養型病院、介護施設、在宅へと広がっています。もちろん以前も急性期病院から療養型病院へと褥瘡が完治することなく転院することは多くありましたが、現在は在院日数の短縮がさらに進んでいることから専門的な治療を必要とする状況のままでの転院や退院となることも多くなってきています。また介護施設や在宅で疾患を抱えながら生活をする高齢者も増えており、以前よりも療養環境が多様化してきています。そして在宅医療の対象者の多くは高齢者であり、低栄養状態もしくは低栄養のリスクを抱えています。褥瘡管理は除圧、局所治療、栄養管理が基本である。個々の症例ごとに、創の状態、介護者などの療養環境、経済状態に応じて治療法を選択していくことが求められます。局所治療の基本はMoist wound healing（湿潤環境下療法）、Wound bed preparation（創面環境調整）であり、創を観察しながら適切な薬剤、ドレッシング法を選択することが大切です。ドレッシング材の選択においては浸出液の量などを考慮しながら選択しますが、在宅医療の現場の特性や介護負担なども考える必要があります。また褥瘡をそれほど見ない場合には診療所での在庫の問題なども考慮しなければいけません。このような状況の中で患者や家族に負担をかけずに適切な栄養管理や褥瘡治療を提供するためには急性期病院のスタッフだけでなく、地域の医療・介護スタッフと連携することがとても重要となっています。また最近では褥瘡が終末期の一合併症として紹介されることもあり、そのまま当院での在宅看取りとなる症例も増えてきています。当院における外来、在宅での創傷・褥瘡管理の実際について報告します。</p>

（敬称略）